



希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

心豊かで たくましい
大門小児童の育成
＜ 夢と目標をもち、
生き生きと活動する子ども ＞



大門小 Street Piano

校長 宮本 江津子

アブラゼミやミンミンゼミの声に混じって、ツクツクボウシの声が聞こえてくると、夏の終わりを感じます。カナカナの声が聞こえてくる夕方になると、その声を合図に、家に帰っていた子どもの頃を思い出します。まだまだ猛暑が続いていますが、いよいよ2学期が始まりました。

長い夏休み、元気に過ごせましたか。終業式の日、子ども達に宿題を出しました。『命を大切にすること』です。長い夏休みを無事に終え、元気な子ども達にまた会うことができ、よかったなあとおもっています。リフレッシュして、新たな気持ちで、夏～秋～冬へ という長い季節の移ろいの中の2学期を充実したものにしていきます。

さて、夏休みの間、先生方も、研修を行って学んだり、環境整備を行ったりと、普段できないことを、時間が取れる夏の間に実施しました。その中で、私が大門小に来てから、夏休みの間にやりたい！と思っていたことを1つ、実行することができました。それは・・・この春、新しくなかよし3組の教室ができ、のびのびホールのステージになっていたところが、倉庫になりました。すると、ホールのステージにあったピアノが、なんと倉庫の中に入ってしまったのです。誰にも目に触れることがなくなってしまったピアノは、このままではきっと誰にも弾いてもらえないままになってしまうのではないかと・・・と思っていました。そこで、環境整備の時間に、先生方で、ふれあい通りの『昔の道具』が展示されているところの一角へ、ピアノを移動してもらいました。名付けて『大門小ストリートピアノ』です。このピアノは誰でも弾いていいピアノとして、この場に置いておきたいと思っています。ピアノを習っていない子も、ピアノを習っていて得意な子も、1年生から6年生まで・・・先生方でも！ちょっと弾きたいと思った時に、触れることができるピアノでありたいと願っています。いつでも！・・・と言いたいところですが、長い休み時間だけにしたいと思っています。先生方からは、「いたずらに弾く子もいるのではないか・・・など、心配の声もあがっていますが、しばらく様子を見守りたいと思います。

実は・・・私が5歳の時に、両親に買ってもらった大切なピアノを、最近、手放してしまったのです。どうしようもなかったのですが・・・。とっても残念な気持ちでいっぱいでした。そのピアノは、私がピアノを弾きたいと言ったら、(きっと高価な買い物だったと思うのですが) 両親が買ってくれたもので、何十年もずっと私の側にありました。そんな時に、このピアノを見つけたので・・・みんなが弾けるピアノとして・・・廊下の遠くから、ピアノの音色が聴こえていく・・・弾いている人の気持ちのこもった音色や曲が聴こえてくる・・・そんなふれあい通りの大門小 Street Piano になったらいいなあと思っています。

学校生活が円滑にスタートし、たくさんの行事がある2学期が、実りある日々となるように、全職員で心をひとつに力を尽くしてまいります。今学期も引き続き、ご家庭、地域の方々のご協力をよろしくお願いいたします。